

指導教員によるコメント

松浦恵美さんの今回の海外調査は、彼女が執筆を予定している博士論文 Henry James 論のために、彼の中期のテキストの成立過程を検証するものである。Henry James は、国際的主題を扱う前期から、心理主義的色彩が濃厚になる後期のあいだのわずかな時期に、社会問題を直截に取り上げたが、当時も、またつい最近まで、この時期のテキストは失敗作とされ、さほど注意を払われてこなかった。しかしそこで扱われた題材はフェミニズム運動やテロリズムなど、時代的に大変新しく、また現在の視点から読み直すべき素材が多い。今回松浦さんは、Henry James のテキストのなかでも異色とされているこれらのテキストのうち、とくにテロリズムを扱った *The Princess Casamassima* を取り上げ、それがどのような経緯で誕生したかを、その自筆原稿や周辺資料を精査して資料的に跡づけようとした。そのために、それらの資料が保存されている米国ボストンのハーヴァード大学ホートン図書館で調査した。その結果、執筆時においてはすでにこのテーマの構想がかなり固まっていることがわかってきたので、今後は執筆前の伝記的・社会的資料を調査し、博士論文では James 論の多角的分析へと繋げていってほしい。

竹村 和子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）